

事業の活動量・実績の数値化 活動指標	指標名		単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①	事業者訪問数	回	計画	-			100	100	100
				実績				120	430	434
	②	アドバイザー訪問数	回	計画	-			20	30	40
				実績				20	206	140
	③			計画	-					
				実績						
	〈記述欄〉※数値化できない場合									

もたらそうとする効果・成果の数値化 成果指標	指標名		指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	①	農林水産物等における中・外食産業への新規成約額	新規成約が向上することは、本市の農林水産業者の所得を向上することにつながるため設定した	万円	計画	-			3000	3000	3000
					実績				560	1100	3500
	②				計画	-					
					実績						
	③				計画	-					
					実績						
	〈記述欄〉※数値化できない場合										

3 (Check) 事務事業の自己評価		
着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	本事業は、本市重点戦略中の「農林水産業の更なる振興」に係る事業である。 事業実施にあたっては、生産者や事業者と共に地域が一体となって取り組むことで、効果を高めることができるため、市が主導し、県や周辺自治体と連携を図りながら事業を行っていくことが、妥当である。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか(成果をこれ以上伸ばすことはできないか)	● 有効である 概ね有効である 有効でない	ニーズに対する供給体制の確立には長期的な取り組みが必要となるが、事業開始からようやく成果が見え始めたところである。
◆実施方法は現行どおりでよいか ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	● 現行どおりでよい 見直しが必要	専門性を要する取り組みについては、既に民間に委託しており、効率化を図りながら効果を引き出す事業内容としている。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善			
今後の方向性 (該当欄を選択)		1 不要(廃止) 2 民間実施 3 市による実施(民間委託の拡大・市民等との協働等) 4 市による実施(要改善) ● 5 市による実施(現行どおり) 6 市による実施(規模拡充)	
今後の方向性の理由、改革改善の取組等		(今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など) 本事業は、八代市総合計画、フードバレーやつしろ基本戦略構想及び市長の基本政策等に掲げられているとおり、農林水産業の活性化を図る取り組みであり、本市の発展に寄与する。 今後も県やJAなどの生産団体、民間事業者、国内流通アドバイザー、派遣職員と連携して、農林水産物等の販路拡大、農林水産事業者等の所得向上などを目指すとともに成功事例を積み上げ、広くPRすることにより、八代の知名度向上と事業者の意欲喚起を行う。	
外部評価の実施		無	実施年度
改善進捗状況等	H29進捗状況		
	H29取組内容		
決算審査に伴う常任委員会における意見等		特になし (委員からの意見等)	

No4290570

事務事業票

所管部長等名農林水産部長 橋永 高德
所管課・係名フードバレー推進課 流通企画係
課長名豊田 正樹

評価対象年度平成29年度(2017)

1 (Plan) 事務事業の計画

事務事業名	フードバレー輸出促進事業			会計区分	01 一般会計				
				款項目コード(款-項-目)	5	—	1	—	3
施策の体系 (八代市総合計画に おける位置づけ)	基本目標(章)	4	豊かさにとぎわいのあるまち	事業コード(大-中-小)	4	—	24	—	10
	施策の大綱(節)【政策】	2	活力ある商工業のまちづくり	総合戦略での 位置づけ	基本目標	1	魅力ある産業と雇用を創出し、活力に満ちた“やつしろ”		
	施策の展開(項)【施策】	4	産業連携の推進		施策大項目	1	多様な地域資源を活かす		
	具体的な施策と内容	1	六次産業・農工商連携の推進		施策小項目	2	フードバレーやつしろ基本戦略構想の推進		
事務事業の概要 (全体事業の内容)	著しく人口増加が見込まれる東南アジアに向けて農林水産物等を輸出し、販路拡大を目指す。その方策として、流通業務に精通したアドバイザーを設置し、計画的な流通戦略を行う。また、台湾や香港などで特産品のPRやバイヤー商談会、市場調査などを行う。								
実施手法 (該当欄を選択)	☐ 全部直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ その他()								
補助金事業該当	☐ 補助金(主な補助先:)※予算の全てが補助金支出である場合に記入。								
根拠法令、要綱等	フードバレーやつしろ基本戦略構想、八代市フードバレー推進本部設置規程								
事業期間	開始年度	終了年度			法令による実施義務 (該当欄を選択)	☐ 1 義務である ☒ 2 義務ではない			
	平成27年度	未定							

2 (Do) 事務事業の実施

評価対象年度の事業内容等

対 象 (誰・何を)	八代市内の農林水産物の生産者、食品製造・販売事業者 八代の農林水産物、加工品							
事業内容(手段、方法等)	成果目標(どのような効果をもたらしたいのか)							
・海外流通アドバイザーの設置 ・輸出セミナーの開催 ・台湾での食品見本市出展 ・「くまもと県南フードバレーフェアIN台湾基隆市」の開催 ・香港での晩白柚プロモーションの実施 ・八代港におけるリーファーコンテナ利用補助	海外への販路を確保することで、生産者や食品製造・販売事業者の所得向上につなげ、八代地域の活性化を図る。							
コスト推移	27年度決算	28年度決算	29年度決算 見込	30年度予算	2019年度 見込	2020年度 見込	2021年度 見込	
事業費(直接経費) (単位:千円)	1,451	1,206	13,238	17,299	15,891	15,891	15,891	
財 源 内 訳	国県支出金			5,921	7,773	7,130	7,130	
	地方債							
	その他特定財源(特別会計→繰入金)							
	一般財源(特別会計→事業収入)	1,451	1,206	7,317	9,526	8,761	8,761	15,891

事業の活動量・実績の数値化		指標名	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
①	事業者訪問数（年間）	回	計画	-					100	100
			実績					430	434	
②	輸出に関するセミナー、研修会の開催	回	計画	-				1	2	2
			実績					1	2	1
③			計画	-						
			実績							
〈記述欄〉※数値化できない場合										

もたらそうとする効果・成果の数値化		指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
①	八代港からの農林水産物等の海外輸出品目数（年間）	農林水産物等を八代港から輸出することは、本市の輸出促進につながるため設定した。	品	計画	-				5	5	5
				実績					1	2	1
②	市の取組みによって海外輸出につながった農林水産物等の品目数（年間）	輸出実績が増えることで、地域の海外展開に対する意欲醸成につながると考えられるため設定した。	品	計画	-						5
				実績							
③				計画	-						
				実績							
〈記述欄〉※数値化できない場合											

3（Check）事務事業の自己評価		
着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か（国・県・民間と競合していないか）	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	本事業は、本市重点戦略中の「農林水産業の更なる振興」に係る事業である。 人口減少に伴い国内市場が縮小する中、国も食品輸出額1兆円を目標に掲げ、世界の食市場に向けた輸出の強化に取り組んでいる。 事業者単体で販路開拓を行おうとすると、費用や人材などの負担が重く、事業の方向性が定まらない場合もある。事業の効果を高めるためには、市が主導し、地域が一体となった取り組みとする必要がある。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか（成果をこれ以上伸ばすことはできないか）	有効である ● 概ね有効である 有効でない	事業の実施により輸出につながった品目については、継続的な取引として着実に推移しており、一定の成果はあったと考える。 ただし、青果物については、輸出先国の規制や価格、輸送時の鮮度保持などの諸条件により、対象国に限られ、商談のテーブルにも乗らないケースが多々ある。 今後は加工品の売り込みにも力を入れ、成約件数を増やす効果的な事業となるよう、必要があれば見直しを行いながら取り組んでいく。
◆実施方法は現行どおりでよい ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか（引上げ・引下げ・新たな負担・廃止）	● 現行どおりでよい 見直しが必要	専門性を要する取組みについては、既に民間に委託しており、効率化を図りながら効果を引き出す事業内容としている。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善			
今後の方向性 (該当欄を選択)	1 不要(廃止) 4 市による実施(要改善)	2 民間実施 ● 5 市による実施(現行どおり)	3 市による実施(民間委託の拡大・市民等との協働等) 6 市による実施(規模拡充)
今後の方向性の理由、改革改善の取組等	(今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など) 事業内容については、主に輸出意欲の醸成、商談機会の提供、継続実施による定番化を目的としており、引き続き取り組んでいくことで更なる成果が出るものと考えます。 ただし、青果物については、輸出先国の規制や価格、輸送時の鮮度保持などの諸条件により、対象国が限られ、商談のテーブルにも乗らないケースが多々ある。 加工品についても同様に諸条件はあるが、青果物に比べて対象地域を広げることができることから、青果物の輸出には固執せずに広く加工品も含め、如何に買い手が欲しいものを効果的に提案できるかを考え、必要があれば内容の見直しを行いながら事業を実施していく。		
外部評価の実施			実施年度
改善進捗状況等	H29進捗状況		
	H29取組内容		
決算審査に伴う常任委員会における意見等	特になし (委員からの意見等)		

1 (Plan) 事務事業の計画									
事務事業名	フードバレー6次産業化等推進事業			会計区分	01 一般会計				
				款項目コード(款-項-目)	5	—	1	—	3
施策の体系 (八代市総合計画に おける位置づけ)	基本目標(章)	4	豊かさにとぎわいのあるまち	事業コード(大-中-小)	4	—	24	—	16
	施策の大綱(節)【政策】	2	活力ある商工業のまちづくり	総合戦略での 位置づけ	基本目標	1	魅力ある産業と雇用を創出し、活力に満ちた“やつしろ”		
	施策の展開(項)【施策】	4	産業連携の推進		施策大項目	1	多様な地域資源を活かす		
	具体的な施策と内容	1	六次産業・農工商連携の推進		施策小項目	2	フードバレーやつしろ基本戦略構想の推進		
事務事業の概要 (全体事業の内容)	本事業は、フードバレーやつしろ基本戦略構想の基本方針のひとつである「フードバレーやつしろの地域ブランドづくり」を推進するために実施されるものであり、八代市6次産業化推進アドバイザーを核とした「6次産業化・農工商連携による新商品開発支援」や「地域内特産物の高付加価値化支援」等に取り組むものである。 また、くまもと県南フードバレー推進協議会や熊本県立大学等との連携を図ることで、八代市内の農林水産業者や商工業者等に新たなチャレンジ意欲の喚起を促す。								
実施手法 (該当欄を選択)	☐ 全部直営								

2 (Do) 事務事業の実施									
評価対象年度の事業内容等									
対 象 (誰・何を)	八代市の農林水産物の生産者、食品製造・販売事業者 八代市内の農林水産物等								
	事業内容(手段、方法等)				成果目標(どのような効果をもたらしたいのか)				
	・6次産業化推進アドバイザーの設置 ・域学連携による6次産業化支援 ・くまもと県南フードバレー推進協議会負担金 ・トマトフェスタ開催補助金				本市の多様な資源・環境を活かした生産・加工・販売・商品開発等を行うことで、生産者や食品製造・販売事業者の所得向上につなげ、八代地域の活性化を図る。				
コスト推移			27年度決算	28年度決算	29年度決算 見込	30年度予算	2019年度 見込	2020年度 見込	2021年度 見込
事業費(直接経費)			(単位:千円)			9,063	8,563	8,563	8,563
財 源 内 訳	国県支出金				1,670	1,670	1,670	1,670	
	地方債								
	その他特定財源(特別会計→繰入金)								
	一般財源(特別会計→事業収入)				7,393	6,893	6,893	6,893	8,563

事業の活動量・実績の数値化 活動指標	指標名		単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	①	事業者訪問数	回	計画	-					100	
				実績					434		
	②			計画	-						
				実績							
	③			計画	-						
				実績							
	〈記述欄〉※数値化できない場合										
もたらそうとする効果・成果の数値化 成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	①	新商品開発数	新商品を開発することは、時産業化や商品の高付加価値化につながるため設定した。	品	計画	-					3
					実績						6
	②	経営戦略支援数	経営戦略に対して支援を行うことで、販路拡大につながるため、設定した。	件	計画	-					5
					実績						5
	③				計画	-					
					実績						
	〈記述欄〉※数値化できない場合										

3 (Check) 事務事業の自己評価		
着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か(国・県・民間と競合していないか)	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	本事業は、本市重点戦略中の「農林水産業の更なる振興」に係る事業である。 事業実施にあたっては、生産者や事業者と共に地域が一体となって取り組むことで、効果を高めることが出来るため、市が主導し、県や周辺自治体と連携を図りながら事業を行っていくことが、妥当である。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか(成果をこれ以上伸ばすことはできないか)	● 有効である 概ね有効である 有効でない	成果目標については、計画通りもしくは上回っており、順調に推移している。 さらに、成果を上げるために、相談会を複数回開催することにより、事業者の意欲喚起を行う。
◆実施方法は現行どおりでよいか ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃止)	● 現行どおりでよい 見直しが必要	専門性を要する取組みについては、既に民間に委託しており、効率化を図りながら、効果を引き出す事業内容としている。

4 (Action) 事務事業の方向性と改革改善			
今後の方向性 (該当欄を選択)		1 不要(廃止) 2 民間実施 3 市による実施(民間委託の拡大・市民等との協働等) 4 市による実施(要改善) ● 5 市による実施(現行どおり) 6 市による実施(規模拡充)	
今後の方向性の理由、改革改善の取組等		(今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など) 本事業は、八代市総合計画、フードバレーやつしろ基本戦略構想及び市長の基本政策等に掲げられているとおり、農林水産業の活性化を図る取り組みであり、本市の発展に寄与する。 今後も県やＪＡなどの生産団体、民間事業者等と連携して6次産業化を推進し、成功事例を積み上げ、広くＰＲすることにより、八代の知名度向上を図る。さらに、相談会の回数を増やすことにより、事業者の意欲喚起を図る。	
外部評価の実施		無	実施年度
改善進捗状況等	H29進捗状況		
	H29取組内容		
決算審査に伴う常任委員会における意見等		(委員からの意見等) 特になし	